資料２

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」（仮称） 検討状況

令和元年11月

内閣府特命担当大臣

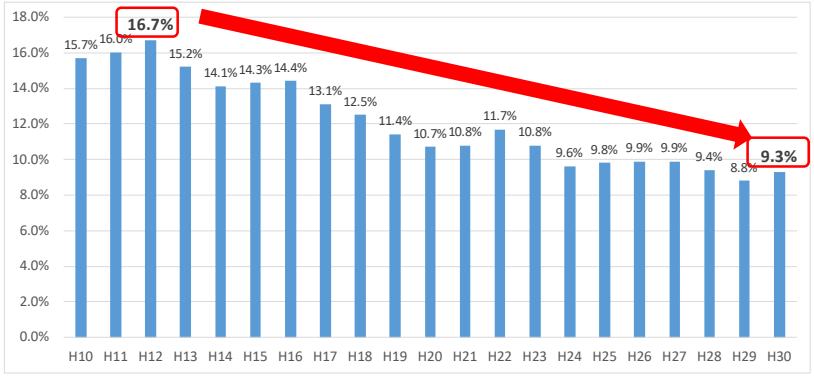
（科学技術政策）

課題

研究力強化の鍵は、競争力ある研究者の活躍
若手をはじめ、研究者を取り巻く状況は厳しく、「研究者」の魅力が低下

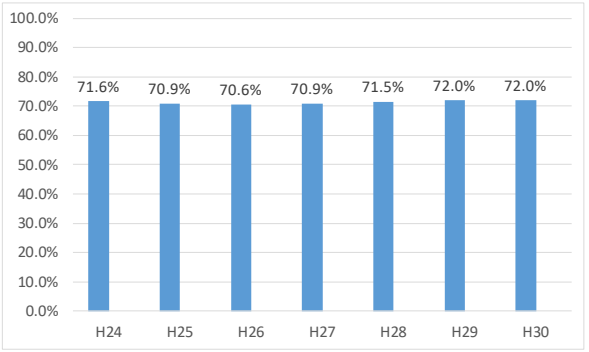
修士課程から博士後期課程への進学率が減少

H12：16.7% ⇒ H30：9.3%
出典：学校基本統計



博士後期課程修了者の就職率が停滞

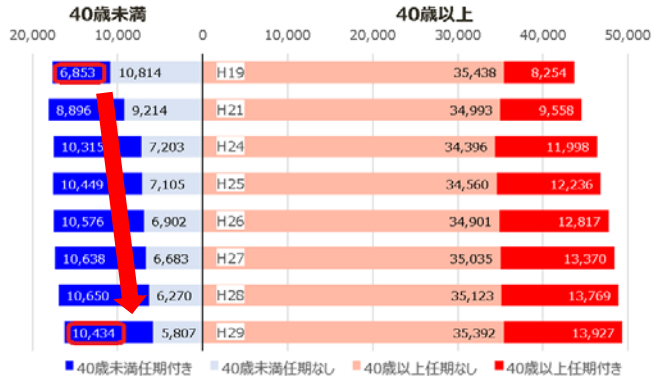
H24：71.6% ⇒ H30：72.0%
出典：学校基本統計



※博士後期課程修了者（満期退学者を含む）に対する、就職者＋臨床研修医＋ポスドク（就職者に計上されている者を除く）の割合

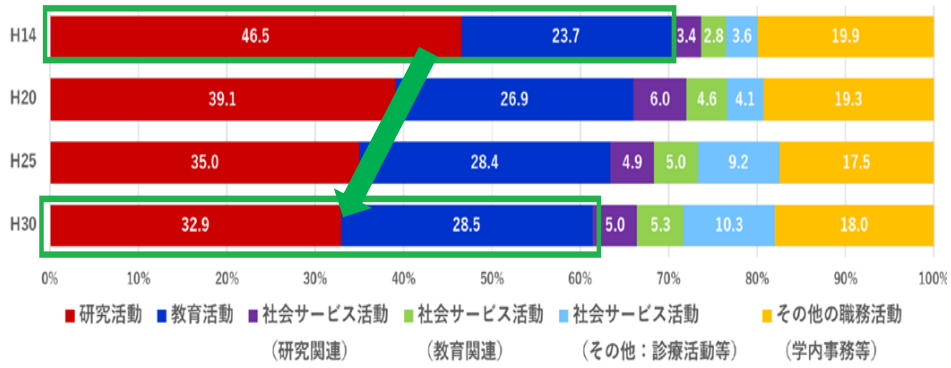
40歳未満国立大学教員のうち「任期付き」割合が増加

H19：38.8% ⇒ H29：64.2%
出典：文部科学省



大学等教員の研究・教育活動の割合が低下

H14：70.2% ⇒ H30：61.4%
出典：大学等におけるフルタイム換算データに関する調査



目標

①若手の研究環境の抜本的強化、②研究・教育活動時間の十分な確保、③研究人材の多様なキャリアパスを実現し、④学生にとって魅力ある博士課程を作り上げることで、我が国の知識集約型価値創造システムを牽引し、社会全体から求められる研究者等を生み出す好循環を実現。

産業界による博士人材の積極採用と処遇改善

産

学

多様なキャリアパス・流動の実現

マネジメント人材、URA、エンジニア等のキャリアパスを明確化

博士前期課程/修士課程

将来の多様なキャリアパスを見通すことにより進学意欲が向上

博士後期課程

独立して研究の企画とマネジメントができる人材の育成
- 博士人材の多様なキャリアパスを構築
- 社会人が積極的に学びやすい環境構築

若手研究者（ポスドク・特任助教等）

自由な発想で挑戦的研究に取り組める環境を整備
- 優秀な若手研究者の研究環境の充実、ポストの確保、表彰

中堅・シニア研究者

多様かつ継続的な挑戦を支援
- 研究に専念できる環境を確保
- 研究フェーズに応じた競争的資金の一体的見直し

魅力ある研究環境の実現

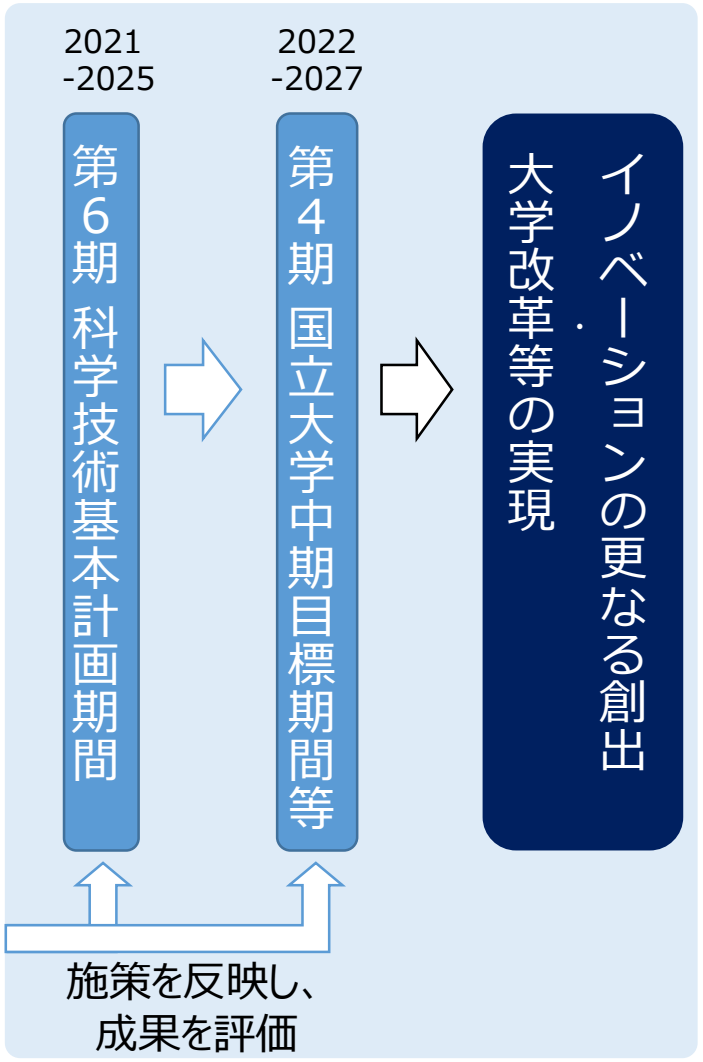
施策の方向性

年内を目途に、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」（仮称）を策定し、「人材」、「資金」、「環境」の三位一体改革を進め、さらに次期科学技術基本計画等に基づき、大学改革等を実現し、イノベーション創出を加速。

【施策の方向性】

人材
- 優秀な若手研究者のポストの確保、表彰
- 博士人材のキャリアパス(教員、マネジメント人材、URA、エンジニア、産業界等) の拡大（有給インターンの拡充等）

資金
- 研究成果の切れ目ない創出に向け、研究者の多様かつ継続的な挑戦を支援する「競争的研究費の一体的見直し」
- 若手研究者の自由な発想による、挑戦的研究を支援する仕組みの強化
- 大学等の共同研究機能等の外部化によるオープンイノベーションの活性化

環境
- マネジメント人材、URA、エンジニア等のキャリアパスの確立(URAの認定制度等)
- 研究機器・設備の整備・共用化促進(コアファシリティ化）、スマートラボラトリー化の推進等

【主なスケジュール】